

## 1. 法人本部

### (1) 全体統括

2020年度は、幹部候補者の育成を兼ねて現中期経営計画の評価、検証と次期中期経営計画の策定に向けた議論を継続して行い、理事会へ提案し承認を得ることができました。経営面においては事業推進に注力した結果、辛くも改善することはできましたが、決して楽観視できる状況ではありませんでした。しかしながら事業環境が目まぐるしく変化する中において各事業部の組織力、課題解決力が向上したことは評価できます。計画上、十分な取り組みができなかった事項については課題を掘り起こし、次期計画推進面において具体的な議論ができる人材育成は着実にすすめることができました。

感染症対策に翻弄される中ではありましたが、職員一人ひとりが真摯かつ前向きに事業へ取り組み、お客様を守ることができたことは大いに評価できるものです。

### (2) 基本方針に基づく運営状況

#### ①安心して働き続けられる職場環境の整備

ア. 人事評価制度の見直しに向けて検討を重ね、部分的な修正を加えて次年度から導入する準備をすることができました。

イ. 評価、育成の視点が十分ではない現行の給与規程の見直しにとりかかっていますが、全面改定には至りませんでした。

ウ. 各部において時間外労働の削減目標をたて、ノー残業デーの実施を継続的に行いました。

エ. 育児休暇の柔軟な取得をすすめ、女性職員2名、男性1名が取得しました。

#### ②積極的な業務改善をもとにした生産性の向上

ア. 補助金を活用し、寝返り支援ベッド2台を特養に導入しました。

イ. 国による新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金（総額8,737千円）を活用し、様々な感染予防対策、IT機器導入によるリモート面会や会議のための準備をすすめ、実施しました。

ウ. 業務の限定化、簡素化を検討し、多様な人材確保について検討をし、一部実施することができました。障害者の体験実習すすめ、3名雇用しました。

#### ③事業連携のさらなる強化による組織力とサービス品質の向上

ア. RO委員会によりホームページをリニューアルし9月にオープンしました。

イ. 第三者評価の受審を昨年度の特養に続き、ジョイフルるうてるで実施しました。

ウ. 各事業部が連携し、新型コロナウイルス感染症対策のための様々な取り組みを行いました。

エ. 全体職員研修は感染症対策により当事者研修は止む無く中止しましたが、スピリチュアルケア研修は当法人理事森本典子氏（関西学院大学講師）に「ディアコニア」に関連する講義を録画にて実施しました。

オ. 一年間の事故や苦情等を分析する苦情解決委員会を2021年3月31日に行いました。

カ. 年間を通じた感染症対策などを通じて事業部間連携がすすんだことは評価できます。特に人員不足となる事業への他部署からの応援、配置は積極的に推進することができました。

#### ④制度に捉われない地域の福祉ニーズへの積極的な対応

ア. 緊急対応が必要とされる高齢者について、相談機関と連携し一時利用の支援を行いました。

イ. 感染症拡大防止対策により、年間通じて地域との交流機会はすべて休止となりました。しかしながら、可能な範囲の中での地域との連携や外部関係機関との受け入れ調整は行ってきました。

#### ⑤中(長)期経営計画策定に向けて適切な収益性の確保

ア. 過年度の大幅な減収、減益を受け、年度当初より事業部管理者と達成目標を設定し毎月検証を行ってきました。しかしながら、事業によっては収益の改善に至らず、課題が残りました。

イ. 事業ごとに行われる職制会議等において、収益改善に向けた取り組みを具体化し取り組んできました。

ウ. 各事業部において、所定労働時間内での業務遂行、消耗品管理や光熱水費の使用状況等について、職員一人ひとりがコスト意識をもって関わることを推進してきました

### (3) 理事会・評議員会等

①2020年度に行われました、理事会・評議員会は以下のとおりです。

2020年 5月29日 第1回理事会（書面表決）

2020年 6月19日 定時評議員会 於：大阪教会

2020年11月27日 第2回理事会 於：大阪教会

2021年 3月29日 第3回理事会 於：大阪教会

②監事監査は、2021年3月12・15日（オンライン）、5月17日に行われました。

### (4) おもな設備整備

・介助補助具（1台）

・寝返り支援電動ベッド（2台）

- ・無線アクセスポイント工事
  - ・ノートパソコン（6台）
  - ・液晶テレビ（1台）
- (5) 2020年度事業概要（2021年3月31日現在）
- ①実施事業数：16事業（うち四條畷市委託事業3）
- （老人福祉法・介護保険法）  
 軽費老人ホーム（ケアハウス）、広域型特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、  
 通所介護事業、訪問介護事業、居宅介護支援事業、地域包括支援センター  
 （障害者総合支援法）  
 多機能型（生活介護・就労継続支援B型）、居宅介護等支援事業、日中一時支援事業、  
 短期入所事業、計画相談支援事業  
 （市委託事業）  
 配食サービス事業、シーツ包布貸与事業、外出支援移送サービス事業
- ②総事業費 630百万円（19年度602百万円）
- ③職員数 127名（うち非正規・嘱託63名）

## 2. 委員会報告

### (1) 人材確保・育成委員会

#### ①活動方針

法人の実践の積み重ねを継承・発展しサービスの向上と地域福祉の推進に積極的に取り組むため、志を同じくする人材を発掘し、また職員同士が相互に成長し合える環境を構築することを目的として活動しました。

#### ②活動状況

2020年度は、昨年度から継続して人材育成としての新規採用職員研修などのプログラムを企画・実施しました。感染症対策期間中ではありましたが、法人説明会や職場体験も問い合わせには柔軟に対応しました。

#### ③人材確保についての活動内容

- ア. 大学等の実習の受け入れ 校
- イ. 就職フェアへのブース出展 計1回 来訪者 計7名
- ウ. 法人説明会・見学会の開催 計2回 参加者 計2名
- エ. 体験就労、職場体験の受け入れ 計1名

#### ④人材育成についての取り組み

- ア. 新入職員研修、介護技術研修（3回）の企画・実施
- イ. 法人内研修の実施サポート

### (2) 危機管理委員会報告

#### ①非常災害対策の推進

- ア. 新型コロナウイルス感染症対策の一環として様々な情報を収集し、法人内で共有するよう努めました。事業部を横断する課題については検討の場を設定し、それぞれが共通認識をもてるよう取り組みました（3回）。
- イ. 事業継続計画検討の第一段階として研修を委員など7名で受講しました。
- ウ. 福祉避難所についてはコロナ禍での受け入れ人数や方法を検討し、市や宿直者と共有しました。昨年度に設置されたMCA無線については、定期的にテスト運用があり対応しました。
- エ. 避難訓練については消防署からの要請もあり、例年どおり2回実施しました。10月（昼間想定）には新職員を対象に避難誘導や消火の訓練を行いました。また、今年度は自動火災通報装置の誤作動が続いたこともあり、マニュアルの見直しを行いました。3月（夜間想定）は2日間で宿直者を対象に訓練を行い、火災発生時の初動について確認、検証を行いました。
- オ. 昨年度購入したポータブル自家発電機用いて10月に起動訓練を行いました。

#### ②安全運転に関する取り組み

- ア. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により安全運転講習会の実施は見送りましたが、運転業務従事者を対象に運転適性検査を実施しました（41名）。結果が出るのは2021年度になりますが、何らかのフィードバックを行います。
- イ. 事故件数は5件でした（2019年度は8件）。車の側面や前方などに傷が入り、うち1件は対向車とのすれ違い際に発生しました。また、運転に対する苦情は2件あり（追い越し、逆走）、担当者と振り返りを行いました。

#### ③その他

非常災害対策に注力したため内部監査は行いませんでしたが、代わりに法人内事業所に向けて自主点検表を用いた自主点検を行うよう発信しました。また、委員全体での情報共有をすすめるため、メールやグループ

ウェアを積極的に活用しました。

### (3) 安全衛生委員会報告

#### ①活動方針

安全衛生委員会は施設の入居者、利用者および職員の安心、安全が保たれ、生活環境や職場環境のよりよい状態保持を活動目的にしています。そのために入居者や職員の健康診断や、感染症予防対策を実施しました。また、職員の安全衛生への意識を高め、知識やスキルを習得できるような研修を企画立案しました。2020年度は新型コロナの影響により各種研修は実施できませんでしたが、その分コロナ感染予防対策に重点を置いた活動を行い、法人各事業所との連携により、年度内での法人内感染者はゼロでした。

#### ②定期健康診断

ア. 入居者健診 実施時期8月 受診者数 ケアハウス・特養 計96名

イ. 職員健診 実施時期9月、10月 受診者数124名 実施機関 医療法人朋愛会

ウ. 職員個別健康相談

健診結果に基づき、有所見の職員に対し、産業医に個別面談を実施して頂きました。2020年度要面談者は33名でした。そのうち緊急性の高い職員については12月に面談を実施し、その後順次年度内に行いました。今年度は前年度からあまり改善の見られない職員についても面談を継続しました。

#### ③インフルエンザ関連

ア. 予防接種実施状況 計 242名(入居者、利用者、職員など)

イ. 発症状況 施設利用者や職員のインフルエンザ発症者はありませんでした。

#### ④研修実施

感染症対策研修のみ人数を絞って実施しました。

#### ⑤メンタルヘルスチームの活動

職員が心身の健康を保ちリフレッシュするための余暇の活用に応じたことを行っているかを聞き、紹介する活動を実施しました。

### (4) 地域交流委員会

①地域との交流を目的として、施設入居者、職員、地域へつなぐ架け橋となれるよう当初計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、中止することが余儀なくされる状況が続きました。

②るうてるフェスタのチームでは実施に向けた検討を開始していましたが、開催できなかったため、これまでの活動についてSNSで発信をしました。

③職員交流会チームでは、三密を避けるためこれまでの活動を休止し、職員間の交流として伝言板を設置しました。明るく前向きなテーマとして、第一弾「わたしのおすすめ」、第二弾「私の推し」を選びました。職員個人の関心のある情報を発信し合い、交流を持つことができました。反響もよく職員の意外な一面や、伝言板をきっかけとして様々な人と話すことができたとの声を聞くことができました。

④次世代育成推進法に基づく一般事業主行動計画については申請についての学びを進め、担当課や他施設へ確認を行い、申請書類を作成することができ手続きをすすめました。

⑤ボランティア活動の活性化の推進としては、新型コロナウイルス感染症対策のため、入館をしていただくことが難しい状況だったため、推進することはできませんでした。

### (5) RO委員会

①2020年度の目標であったホームページのリニューアルを「老舗の冒険」をキャッチフレーズとして改編することができました。目的を新規職員の応募数増加、新規利用者の獲得、るうてるホームの魅力の発信として取り組みを進めました。昨年度から検討に入り、採用情報担当、新コンテンツ担当をおき「最高のサービスのために楽しむ」をコンセプトに、業者の選定、内容、デザイン、大切にしたいことを共有しながら進めました。業者にすべておまかせするのではなく、自分たちで調べて提案して作り上げていくという手法を取り、クリエイティブな感覚を持って得意なところを生かして作り上げていくことは日常業務にない大きな経験となりました。また、自分たちのアピールポイントを再発見するタイミングでもありました。

②SNSでは、InstagramとTwitterを開始し、日常の様子を発信することができました。Instagramではフォロワーも現在では370越えており、順調に数を増やしてきています。Twitterでは「ジョージのつぶやき」として理事長に記事を依頼して発信しています。ハッシュタグを増やしたり、記事の掲載の方法など、若い職員の知識を活用しながら多くの方に知っていただけるように、フォロワーを伸ばしていけるよう工夫し、推進してきました。

## 3. チャレンジ報告

「わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。」(ヨハネ福音書 15章 5節)

玄関ロビーのステンドグラス『洗足のキリスト』に示されているように私たちは、お客さま一人ひとりのニーズに心して仕えてゆくという創設時(1965年)のミッションスピリットを継承することに努めてまいりました。昨年度は特に新型コロナウイルス感染症パンデミックによる未曾有の状況の中で、感染防止のため手探りしなが

ら歩むことになった非常に長く感じられた一年でした。これまでの守りを心より感謝しています。

## (1)「礼拝(神の御言)」中心の働き

### ①主日礼拝

2019年までは、毎週日曜日午後2時半より日本福音ルーテル教会(JELC)関西地区や地域の諸先生方の協力を得て、3Fの多目的ホール(チャペル)において30名ほどの参加者で礼拝を守ってまいりました。しかし、感染症予防対策のため2020年の3月からは礼拝が休止となることの多かった一年でした。別表のように、1~2月は通常通り3Fで礼拝を行うことができましたが(8週)、3月から9月までは、7月の第一と第二日曜日の2回を除き、3Fに集まる形での礼拝はすべてお休みとなりました(休止は52週のうちちょうど半分の26週)。その代わりに6月からは「るうてるネットワーク」を用いた無会衆礼拝(3F)を各居室やホールに配信することを開始。10月と11月には参加者を12名ほどに限定して2Fで礼拝を再開することができました(9週)。しかし12月から2月末までは再び感染症拡大のために休止となりました。諸先生方にはいろいろと日程調整のためにご迷惑やご心配をおかけしたことと思いますが、柔軟に対処してくださったそのお支えに心から感謝いたします。

12月からは日曜日の午前10時半にインターネットYouTubeで配信されるJELC大阪教会の主日礼拝のライブ中継を「るうてるネットワーク」で配信するかたちを取り始めました。20名くらいの方がオンライン礼拝に参加されているでしょうか。大阪教会の礼拝週報と説教要旨も希望者には毎週の礼拝に合わせて配布しています。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1週	28	27	休	休	休	休	26	る	る	13	11	休/Y	休/Y	休/Y	22/Y
2週	29	27	休	休	休	休	30	る	る	10	12	休/Y	休/Y	休/Y	16/Y
3週	27	25	休	休	休	休	る	る	る	12	11	休/Y	休/Y	休/Y	17/Y
4週	30	21	休	休	休	休	る	る	る	13	12	休/Y	休/Y	休/Y	16/Y
5週	/	/	休	/	休	/	/	る	/	/	11	/	休/Y	/	/
合計	114	100	0	0	0	0	56	-	-	48	57	-	-	-	71
平均	28.5	25	0	0	0	0	28	-	-	12	11.4	-	-	-	17.8

別表: 忍ヶ丘礼拝2020年度実施状況(2020年の1-3月は2019年度であるが、参考・記録のために提示している)なお数字は礼拝出席者数を表す。休:礼拝休止(2020年4月より2021年3月までには26週で礼拝を休止)る:「るうてるネットワーク」を介する「無会衆礼拝」を3Fから配信(11週)。この間担当牧師には来訪いただく。10月と11月は2Fで参加者を12名に限定して対面礼拝を実施(9回)。この間るうてるネットワークは休止。Y:12月以降は毎週日曜午前10時半よりのJELC大阪教会YouTube主日礼拝を「るうてるネットワーク」で配信。なお特記事項として、礼拝献金の減少のため2021年3月よりは担当牧師の謝礼を引き下げさせていただいた

### ②毎朝の礼拝

「聖書日課」を用いての「毎朝9時の礼拝」も、主日礼拝と同じく休止が多かった一年でした。ユニットによっては有志による自主的な祈りの時を持っているところもありました。

### ③葬儀・告別式

2019年度の最後の時期、1月16日にA・Hさんが93歳で召天されて天王寺教会でご葬儀が行われました。2020年度に私はチャプレンとして、①K・Aさん(9月11日、90歳)、②N・Aさん(9月26日、88歳)、③T・Kさん(10月13日、99歳)、④Y・Iさん(2月7日、81歳)⑤Y・Kさん(3月19日、62歳)、⑥T・Tさん(3月20日、100歳)の6名の方々のご葬儀に関わらせていただきました(うちクリスチャンは3名)。ご遺族の上に天来の慰めをお祈りいたします。

ホームの多目的ホールで行われるキリスト教式の葬儀・告別式は、別離の悲しみの中にも慰めに満ちたものとなっています。讃美歌「神ともにいまして」が皆で歌われる中でホームの正面玄関から故人の棺が送り出されるということは当るうてるホームの大きな特徴です。復活の主によって私たちに示されている希望は、死は終わりではなく、墓は私たちの終着駅ではないということです。それはまことに見事な葬儀であり、長い人生を生きてこられた方々が人生の最後の時をまとめてゆくのにまことに相応しいものであると思います。ホームでの葬儀はクリスチャンに限らずどなたでも希望者は行うことができることも大きな特徴となっています。

### ④聖書研究会

原則として月2回水曜日の午後天王寺教会牧師とチャプレンが交代で聖書研究を行うことになっていましたが、こちらも感染症予防対策のため休止した方が多い一年でした。

### ⑤召天者記念礼拝

2019年度から始められた召天者記念礼拝も、2020年は11月7日に、参加者を少人数に限って「るうてるネットワーク」を通して配信するかたちで行われました。そのため今回はご遺族をお招きすることはできませんでした。

#### 4. 軽費老人ホーム ケアハウスるうてる

##### (1) 運営状況

2020年度の退居者8名。退居後の住居は、医療型の施設1名、介護型施設1名、特養に5名、自宅に戻られた方1名。今年度は特養との連携の取り組みを行いケアハウスの入居者の方々の状態を知って頂くことにより、短期入居の利用や特養入居がスムーズに行われました。新入居者は年間8名、現在満室を維持しています。入居の申込者はコロナ対策により訪問、見学自粛したことによりやや減少しましたが、7月以降には見学の相談が増加してきました。1年間の入居相談や見学者を含めると46名。

今年度は1、「安心して働き続けられる職場環境の整備」として①変形労働制の導入、②新職員の育成や他部署への体験実習等取り組みました。2)入居者の生活の困り事を解決するために他部署との連携を深める」については、居室のお掃除や整理整頓等が苦手な方や介護サービスの利用ができない方への取り組みとして他部署の有償サービスを利用し居室の掃除、洗濯、窓拭き、ベランダ、など定期的に行うことができました。

今年度スタートから新型コロナウイルス感染症の対策に追われる日々が続きました。入居者の方々に於いては日常生活が大きく変化しました。お仲間との食事の場所、外出の制限、ご家族との面会等の自粛をお願いしてご協力いただきました。1年間、感染者がなく、穏やかな日々を過ごすことができたことは最も嬉しい事でした。まだまだ続く生活の不自由さを忍耐強く受け入れていく必要を感じます。コロナ禍において新しい生活を創造していくことの大切さを感じています。高齢者のお一人お一人の大切な時間を有意義に過ごせるよう支援してまいります。

##### (2) 事業実績

###### ①利用状況

	2020年度	2019年度	差異
利用者数(延べ)	18,250人	18,300人	▲50人
入院日数(延べ)	386日	560日	▲174日
短期入所利用日数	133日	39日	94日
稼働率/対実員	97%	97%	

###### ②入居者の現状(2021年3月31日現在) (単位:人)

	60-69歳	70-79歳	80-89歳	90-99歳	100歳以上	計
男性	0	4	3	5	0	12
女性	0	5	22	11	0	38

※最高齢:男 99歳/女 93歳 ※平均年齢:男 81.8歳/女 84.6歳

###### ③介護保険利用状況 (単位:人)

	要支1	要支2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
男性	2	0	0	1	1	1	0	5
女性	5	5	10	5	2	0	0	27

###### ④介護保険利用状況 (単位:人)

	2020年度	2019年度	差異
訪問介護	227	275	▲48
訪問リハビリ	53	36	17
通所介護	218	250	▲32
福祉用具レンタル	216	164	52
訪問看護	4	49	▲45
短期入所	13	6	7
介護タクシー	0	11	▲11
計	731	791	

#### 5. 特別養護老人ホーム るうてるホーム

##### (1) 運営状況

2020年度はユニット間の連携を円滑にするためとチーム力向上を目指して、ユニットメンバーやリーダーの内部異動を行いました。リーダー同士のコミュニケーションの促進や課題の共有を深め、ユニット運営をサポートする体制を継続して行ってきました。

新型コロナウイルス感染症による影響としては、発熱等があっても入院に至るまでに半日以上かかることもあり、結果として状態が悪化し、入院の長期化(一か月以上入院もしくは退院後に再び入院となること)が顕著にみられました。また入居者の外出、家族との交流が制限された中ではありましたが、職員同士でアイデアを出し合い、入居者への精神的サポートへの取り組みを創意工夫し行ってきました。

感染症に対しての情報が錯そうする中、介護職員、看護職員とで話し合いをすすめ、協力して対策を講じてきました。その甲斐があり、誰一人感染症に罹患しなかったことは職員一人ひとりの意識の高さを表していると評価しています。

(2) 事業実績 (定員50名)

	目標	2020年度	2019年度	目標との差異
のべ利用者数	17,338人	17,227人	17,849人	▲111人
稼働率	95.0%	94.4%	97.5%	▲0.6%
平均介護度	—	3.9	3.9	—

※入院のべ日数は935日(19年度460日)、退居後の新規入居までの空室日数は57日(同49日)

※新規入居者は16名、退居者数は18名でした。

利用者の現況 (2021年3月31日現在)

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	0	4	1	2	0	7
女	0	6	10	19	8	43

最高齢：男94歳 女105歳 平均年齢：男82.3歳 女91.5歳

利用年数	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年～	計
男	3	0	0	0	0	0	7
女	10	21	8	2	1	1	43

平均在所期間：3年7ヶ月

## 6. るうてるホーム短期入所生活介護事業所

(1) 運営状況

2020年度は年度当初より職員を補充し、6月より2ユニット稼働をはじめました。新型コロナウイルス感染症が拡大する中ではありましたが、ショートステイのニーズは滞ることはなく、感染症対策を講じた上で積極的な受け入れを行いました。その結果、年度目標であった全室稼働を2月に達成し、下半期での平均稼働率は79%にまで伸びました。また年間実績においても昨年度と比較して約1.7倍の利用となったことはユニットメンバーの意識向上はもとより、特養や他部署などによる様々なバックアップ体制が整ったことによるものです。

過年度からケアの継続性を重視することを目的に行ってきた長期利用から特養への入居は、年間およそ7割の方が移行することとなりました。また長期利用ニーズの掘り起こしなど新しくサービスを利用していただくためのリサーチ活動も積極的に行い、感染症拡大の状況にも関わらずこのような実績が残せたことは、職員一人ひとりのプロ意識とチームワークが向上した結果であると評価しています。

(2) 事業実績 (定員20名)

	目標	2020年度	2019年度	目標との差異
のべ利用者数	高齢 2,627人	3,594人	1,790人	+967人
	障害 2,190人	1,280人	1,151人	▲910
稼働率	高齢 36.0%	49.2%	24.5%	+13.2%
	障害 30.0%	17.5%	15.7%	▲12.5%

※一日当たりの平均利用は、13.3人(高齢9.8名、障害3.5名)でした。

※一ヶ月を超えて利用された方は、高齢20名、障害2名でした。また緊急利用はのべ11名でした。

※年間利用実人数は、高齢79名(男25、女54)、障害26名(男12、女14)でした。

※新規利用者は高齢51名、障害9名でした。

## 7. デイサービスセンターるうてる

(1) 運営状況

2020年度は新型コロナウイルス感染症流行による影響がありましたが、お断りしない姿勢を保つことが出来ました。1回目の緊急事態宣言の中でも、必要な方へのサービス、体験利用の受け入れを縮小することなく継続して行うことが出来ました。また、感染対策の発信や、感染症予防対策のため、プログラムの幅が狭まったときにも、新プログラムチームの主導により、劇やコント等、例年にない取り組みを行い、コロナ禍の中、利用者様に楽しんでいただけるプログラムを作り上げることが出来ました。今年度は地域へのアプローチを計画していましたが、感染症拡大のため進めることができませんでした。

(2) 事業実績

	目標	2020年	2019年	目標との差異
のべ利用者数	9,862人	8,465人	9,195人	▲1,397人
稼働率(対定員)	90.0%	77.5%	84.0%	▲12.5%
体験利用者数	48人	40人	51人	▲8人
新規利用者数	—	31人	32人	—
新規利用者比率	—	77.5%	62.7%	—

## 8. 障害者多機能事業所 ジョイフルるうてる

### (1) 運営状況

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大いに受ける1年となりました。稼働率では生活介護目標110%に対し91.4%となり、年間を通して利用控えや疾患の進行による利用中止等が相次ぎました。そんな中でも、コンセプトを立ち上げることができました。「あなたと私と一緒に作るジョイフル」「思いやりと配慮を大切にみんなが笑顔で気持ち良く過ごせるジョイフル」とし、ルール化の徹底ではなくグレーゾーンを残した判断規準を作りあげることができました。

就労継続支援B型では年間平均稼働率目標70%に対し、74.1%の実績を上げることができました。個別に対応可能な作業の種類があることで幅広い利用者への対応ができたことが要因であると考えます。

平均工賃月額も昨年の6,898円から、10,800円となりました。

### (2) 事業実績

生活介護	目標	2020年度	2019年度	目標との差異
のべ利用者数	3,405人	2,829人	3,368人	▲576人
稼働率(対定員)	110%	91.4%	109.2%	▲18.6%

就労継続支援B型	目標	2020年度	2019年度	目標との差異
のべ利用者数	1,799人	1,904人	1,657人	+105人
稼働率(対定員)	70%	74.1%	64.2%	+4.1%

生活介護では、体験利用2件、新規2名、就労継続支援B型も体験利用2件、新規2件あり、その他見学などもありました。生活介護では、新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年3月からお休みされている方、8月から長期に利用控えとなっているケースがありました。その他にも、緊急事態宣言発出の際、外出を制限される入居施設などもあり、大きな影響がありました。就労継続支援B型では、利用控え等の影響はほとんどありませんでした。

## 9. 四條畷第1地域包括支援センター

### (1) 運営状況

「住民の持つ力の証明」を地域支援のキーワードとして、地域共生社会の実現に向けて取り組みました。コロナ禍という状況であっても活動を展開できるよう、感染対策の研究や実施に積極的に取り組み、電話・テレビ番組を活用した教室開催やITを活用した講座企画、事業継続計画(BCP)の作成などをすすめました。

オンライン会議についてはこれまで実績がありませんでしたが、ツールや使い方の研究、必要物品の準備、環境設定などを整えつつ、活用を始めることができました。

また、2020年度は主任介護支援専門員の退職と異動がありました。専門職の確保が困難な中、法人一体とした専門職育成と地域等でのスケールメリットを活かした人材確保の課題を実感しました。人材確保・育成を地域課題として教育機関等との関わりを継続すると共に、新体制の構築に向けて新たな一歩を踏み出しました。

### (2) 事業実績

#### ① 包括的支援事業

##### ア. 総合相談支援事業(のべ件数)

	2020年度	2019年度
総合相談業務	807件	956件

##### イ. 権利擁護事業(のべ人数)

	2020年度	2019年度
権利擁護に関する相談	40人	53人
高齢者虐待に関する相談	8人	8人

##### ウ. 包括的継続的マネジメント業務(のべ人数)

	2020年度	2019年度	中止の回数 (新型コロナの影響)
介護支援専門員支援に関する相談	16人	35人	
研修会 ※1	5回	1回	0回
ネットワーク会議 ※2	46回	11回	7回

※1 研修会：介護支援専門員連絡会 4回、栄養・口腔ワーキング研修会 1回

※2 ネットワーク会議：大東・四條畷 医療・介護連携会議（在宅看取りワーキング 12回、認知症ケアワーキング 7回、栄養・口腔ワーキング 7回）、市民啓発・居場所づくりワーキング定例会 10回、移動ワーキング定例会 3回、絆定例会 7回

②指定介護予防支援・第1号介護予防支援事業（介護予防ケアマネジメント）に係る事業  
ア. 2020年度実績

	介護予防支援	介護予防 ケアマネジメント
ケアプラン作成数	1,601件	934件
うち委託件数	1,295件	713件
うち自事業所作成件数	306件	221件

イ. 昨年との比較及び目標との差異

	目標	2020年度	2019年度	目標との差異
ケアプラン作成数	2,280件	2,535件	2,359件	255件
うち委託件数	1,800件	2,008件	1,869件	208件
うち自事業所作成件数	480件	527件	490件	47件
事業収入（概算）	3,144千円	3,684千円	3,423千円	540千円

③介護予防事業

ア. 介護予防普及啓発事業 介護予防教室・介護予防に関する講演会 ( ) は参加人数

	2020年度	2019年度	中止の回数 (新型コロナの影響)
開催回数（参加人数）	4回(44人)	6回(177人)	3回

イ. 地域介護予防活動支援事業 ( ) は参加人数

	2020年度	2019年度	中止の回数 (新型コロナの影響)
通いの場開催 直接的支援	8回(15人)	7回(65人)	0回
通いの場開催 間接的支援	16回(31人)	12回(34人)	1回
その他の事業（ボランティア活動支援等）	23回(89人)	22回(86人)	2回
地域ケア会議（個別・圏域を含む）	26回(93人)	40回(45人)	2回

④その他の事業（任意事業）

ア. 家族介護支援事業 ( ) は参加人数

	2020年度	2019年度	中止の回数 (新型コロナの影響)
家族介護教室	0回(0人)	0回(0人)	0回
介護者家族交流会 開催支援	5回(11人)	9回(23人)	7回

イ. 認知症高齢者見守り事業 ( ) は参加人数

	2020年度	2019年度	中止の回数 (新型コロナの影響)
認知症に関する教室・講演会	2回(81人)	1回(10人)	0回
認知症サポーター養成講座	4回(65人)	10回(265人)	4回
（うち、ジュニアサポーター養成講座）	1回(120人)	1回(111人)	0回
認知症サポーターステップアップ講座	1回(10人)	1回(31人)	0回

## 10. ケアプランセンターるうてる

### (1) 運営状況

2020年度当初は、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初の計画を大幅に変更し、所内の体制整備や法人内の課題検討を最優先事項としてすすめました。未曾有の事態の中、法人全体で議論を行えたことは、たいへん有意義であったと認識しています。また、法人建物の空室を活用し、分離ワークを試みました。このことは、災害時対応を考える上で貴重な経験となりました。

11月には人事異動により職員1名が減となり、事業所の立て直しが課題となりました。管理者要件である主任介護支援専門員を計画的に育成していくことの重要性を強く認識しました。

「ケアマネジメントの質的向上」については、研修の多くが延期や中止となりましたが、オンライン方式に対応できるよう、環境を整えることができました。また、8月からは所内で事例検討会を行い、事例への理解と共に検討会自体の進め方も学びました。看取り関連の取り組みは計画どおり実施できませんでしたが、ケースとして担当することはあり、在宅での看取りが当事者や関係者にとって日常化しつつあることを体感しました。

「総合相談機能の拡充」においては、支援の質向上や加算算定の機会獲得を目指し、要医療児者対応の研修受講や短期入所事業所と共に「地域生活支援拠点（障害）」として届出を行いました。また、障害への理解を深めるため、法人内職員と共にオンラインで外部研修を2回受講しました。社会貢献事業については4件の相談がありましたが、介護保険制度以外の制度も学びつつ、相談対応にあたりました。

「人材育成のための環境整備」としては、朝礼を導入し、それぞれが1日のスケジュールを意識するよう取り組みました。また、ケアマネ連絡会の世話会に引き続き参画すると共に、新たに大東・四條畷医療・介護連携推進協議会の看取りワーキングチームへ参画しました。四條畷学園のオンライン実習（在宅看護）において実践報告を行い、仕事の魅力を発信することができました。

## (2) 事業実績

### ①介護保険 居宅介護支援・介護予防支援

	目標	2020年度	2019年度	目標との差異
介護ケアプラン数	1,752件	1,388件	1,385件	▲364件
介護予防ケアプラン受託数	420件	421件	432件	1件
一人あたり請求件数/月 ※1	32.7件	34.3件	31.0件	1.6件
一人あたり支援件数/月 ※2	36.2件	38.8件	35.2件	2.6件

※1…一人あたり請求件数=(要介護ケアプラン数+介護予防ケアプラン÷2)÷(常勤換算値)/月

※2…一人あたり支援件数=(要介護ケアプラン数+介護予防ケアプラン)÷(常勤換算値)/月

※常勤換算値…2020年度実績は10月まで4.3名、11月以降3.3名で計算

### ②障害者総合支援 計画相談支援

	目標	2020年度	2019年度	目標との差異
プラン数	373件	317件	304件	▲56件
請求件数	90件	76件	71件	▲14件
事業収入	1,300千円	1,083千円	1,049千円	▲217千円

※12月より新たな体制加算を算定

※2019年度の事業収入は前年度の報告書の数字を修正

## 1.1. ヘルパーステーションるうてる

### (1) 運営状況

2020年度当初は、新型コロナウイルス感染症対策を最優先事項としてすすめました。利用者あるいはその家族、職員家族などが陽性となることもあり対応に苦慮しましたが、都度関係者で話し合い、共通認識をもって対応するよう努めました。感染症流行期には、短時間在宅ワークの試行や直行直帰を基本としたシフト調整、担当割の細分化など感染症対策を徹底し、ヘルパーの共倒れを防ぐよう努めました。

「利用者獲得・定着の取り組み」「るうてるケアの再構築」については、フットケアや短時間ケアなどをPRポイントとして7月に営業活動を行いました。継続的な活動には至りませんでした。しかし、法人内居宅介護支援事業所との連携により、フットケアについては4名の方に開始することができました。浮腫の改善、歩行状態の安定、コミュニケーションの充実などにつながり、利用者から大変好評でした。また、コロナ禍で利用者が運動不足になり転倒につながるケースがあったため、サービス提供中に簡単な体操を取り入れ、運動を促す取り組みを行いました。短期入所事業所との協働は、コロナの影響により6月まで中止、7月から1名のヘルパーに限って再開となりました。3月には特養の人員不足を受け入浴対応も行いましたが、単なる人員派遣に終始するのではなく、顔の見える関係づくりを意識してコミュニケーションを図るよう努めました。

「サービスの質向上」については、看取り対応に携わる中で、専門職本位ではなく本人や家族の思いに寄り添ってケアすることの大切さを再認識しました。また、モニタリング会議（月3ケース×複数回）を通じて、利用者に心を寄せてケアの内容を検討することと併せて、勤務上孤立しがちな職員が互いのつながりを意識できるようコミュニケーションを図りました。研修については、コロナ対策を講じながら実施しました。

「人材確保・育成のための環境整備」については、新職員が兼務で配属されましたが（6月より週1回）、新しい視点が加わる中で気づき生まれ、サービスの見直しにつながることもありました。また、四條畷学園のオンライン実習（在宅看護）において実践報告を行い、ヘルパーの仕事の魅力を発信することができました。

## (2) 事業実績

### ①介護保険

	目標	2020年度	2019年度	目標との差異
利用者数（月ごとのべ人数）	720人	595人	576人	▲125人
のべ訪問回数	6,480回	5,650回	5,501回	▲830回

### ②障害者総合支援

	目標	2020年度	2019年度	目標との差異
利用者数（月ごとのべ人数）	120人	57人	56人	▲63人
のべ訪問回数	1,220回	954回	989回	▲266回

## 1.2. 栄養課

### (1) 運営状況

2020年度も安心・安全な生活を支えるため、「食べること」で健康を維持し、ご自分らしくお過ごしいただけるような食事提供を目標に業務を進めました。コロナ禍で入居者や通所サービスをご利用の皆様のご日常生活が制限され、暮らしていく上での楽しみが減る中で、少しでも潤いとなり楽しみのエッセンスになるようにという思いで食事を提供しました。イベント食を定期的に行いましたが、いずれも好評で食事委員会での報告においてもそのような声を頂きました。

災害対策については、2019年度に設備の導入や備品の準備を行ってきましたので、今年度は実践による備えを計画していましたが、マニュアル化の実現のみ実施できました。

今年度は事故がなく、スムーズなサービス提供が行えました。また、オンラインの活用も進めることができ、Zoomでの研修実施も行えました。

### (2) 事業実績

事業所		上半期	下半期	2020年度合計	2019年度合計	2018年度
ケア	美食数	23,188	23,435	46,623	45,431	44,243
特養	美食数	28,275	29,838	58,113	55,352	60,009
	経管	2,967	4,098	7,065	4,926	3,924
デイ	食数	4,264	4,098	8,362	9,039	8,773
障害	食数	1,929	1,824	3,753	4,123	3,708
配食	食数	149	169	318	306	622

### (3) 事業実施状況

①ソフト食の朝食実施に向けての取り組みは、まだあまり進捗していません。現在朝食は、お粥のみソフト食の対応が可能で、今年度は2～3名の方がお粥を召し上がられました。今年度の後半は特養において入院者が多く、ソフト食対応の方も入院され、年度末では1名がソフト食を召し上がられていました。

②お客様の健康維持への取り組みとして、介護職や相談職とお客様の状態情報を共有し、その方にあった食事形態、栄養補給や水分補給できるものを検討し、提供しました。栄養補助食品も活用し、通常の食事では十分摂取できない栄養を補って頂きました。補助食品を利用される方は特養だけでなくケアハウスにもいらっしゃいますので、合わせて約12～13名でしたが、入院や退去もあり、年度末には9名でした。嚥下機能の低下や体調が完全でない方が増加している傾向がありますが、最近は栄養補助食品も品質が向上し、味もおいしくなり、種類も増えて選択の範囲が広がり、飽きることが無いよう摂取して頂くように工夫しました。

#### 〈低栄養リスクレベル推移（％）〉

	2020年度				2019年度			
	4月	7月	10月	1月	4月	7月	10月	1月
低	60	48	50	50	54.0	50.0	42.0	53.1
中	36	50	48	50	40.0	44.0	50.0	42.9
高	4	2	2	0	6.0	4.0	8.0	4.0

③20年度のイベント食としては、感染症拡大の影響もあり、提供方法を工夫しながらユニットや事業所の希望に添ったものや、季節の行事食を実施しました。普段はあまり召し上がらない方もよく食べて頂くことができました。また、ケアハウスでは毎月「でき立て料理」を提供し喜んで頂きました。前年度のように一堂に集まって楽しむという事は叶いませんでしたが、集まらない形式で、作り立てをユニットに運んで召し上がっていただくようにし、皆さん楽しみにして下さいました。

- ④やわらか食の検討については、実施施設の見学などを計画していましたが、実現できませんでした。引き続き情報収集に努め、少しずつでも進めていきたいと考えています。
- ⑤毎月の食事委員会などを通して、お客様からご意見やご要望を頂き、食事内容の充実を図りました。主に味付けやメニューの変更を休職委託業者と共に実施しました。年度途中で調理師が交代して味付けが不安定になることもありました。次第に改善されたというご意見を頂いています。
- ⑥20年度は停電や断水、ガスの供給停止時の対応をマニュアル化しました。前年度に整備した災害時用の炊き出し釜の試用確認はまだできていませんが、避難訓練時に非常用発電機の確認を行いました。
- ⑦他施設との連携の面では、感染症拡大の影響で、研修については Zoom による開催が主流になりました。これまでにない初めての試みでしたが、多数の参加者を得ることができました。

### 1.3. 事務課

#### (1) 運営状況

2020年度の事業方針として、経営基盤の向上を重点課題として取り組むこととし、財務状況の健全性を維持のため、状況の確実な把握と結果の共有を行うことに注力しました。結果として19年度との比較において状況の改善を果たすことができました。恒常的な赤字体質に陥る一歩手前で何とか踏ん張っている状態です。しかし内訳を見ると事業部によって年間を通しての改善状況の傾向に偏りがありました。今期収支においてプラスの結果を残すことができましたが、事業収入以外に単発の補助金、助成金等もあり、それが支出増加分の補填になりました。支出の面では水光熱費が年度当初予算をオーバーしましたが、これは電力会社との契約内容により、コスト急騰の影響を受けたことによるものです。

業務の効率的推進については、現在行っている、業務内容ごとの担当者による事務遂行によって日常業務はスムーズに行うことができました。全体の業務遂行状況や目標達成度合いを、職員会議や日常的なミーティングにおいて共有し、今後の方針や課題についてオープンに検討しあうことで運営を意識した行動がとれています。

法人の要の部署であることを意識して、法人内事業所間だけでなく、他法人、行政機関との対応を適切に行えるよう心掛けて活動しました。

#### (2) 事業実績

##### ①収入状況

(単位：千円)

	予算	決算	予算対比 (%)	2019 年度	2018 年度
介護保険	359,140	358,699	99.9	339,499	349,837
利用料	144,941	143,228	98.8	137,765	139,741
診療報酬	4,800	4,453	92.8	4,722	4,887
自立支援	65,400	64,975	99.3	68,867	70,450
補助金・委託料	53,065	53,346	100.5	46,964	42,625
その他	6,801	6,056	89.0	5,750	8,852
合計	634,147	630,756	99.5	607,374	616,392

##### ②支出状況

##### ア. 総合支出

(単位：千円)

	予算	決算	予算対比 (%)	2019 年度	2018 年度
人件費	413,090	412,099	99.8	427,010	428,129
事務費	59,770	57,384	96.0	56,400	55,072
事業費	82,814	79,903	96.5	73,360	73,567
借入金返済	51,312	51,312	100.0	51,312	51,312
その他	18,544	17,823	96.1	29,360	14,872
合計	625,530	618,521	98.9	637,442	622,952

##### イ. 水光熱費等

	年度	2020	2019	2018
ガソリン消費量 (ℓ)	上半期	6,333	6,866	7,358
	下半期	6,487	6,881	6,552
	合計	12,820	13,747	13,910
水光熱費	上半期	14,409,374	15,441,952	15,548,783
	下半期	19,532,221	15,450,894	16,522,503
	合計	33,941,595	30,892,846	32,071,286

### 1.4. 四條畷市委託事業

#### (1) 運営状況

配食サービスについては、新規1名、終了2名（転居、民間サービスへ移行）となり、年度末時点での登録者は障害1名のみとなりました。2021年度をもって、くすのき広域連合の配食サービスは廃止となります。リネンサービスは、昨年同様1名が継続利用でした。外出支援移送サービスは、今年度も利用がありませんでした。

また、2018年度より生活支援整備体制事業の一環として生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）事業を受託していますが、その役割や機能について各種活動を通じて考察を深めるよう努めました。意識的に活動する中で、活動団体を捉える視点が変化するのを体感しました。年度末には地域包括支援センターにおいて勉強会を設定し、生活支援コーディネーターの位置づけや活動内容についての共有を始めました。

## (2) 事業実績

### ① 配食サービス

	2020年度	2019年度	差異
のべ利用者数	24人	23人	1人
配食数	282食	284食	▲2食

※配食数のうち4食は自費対応

### ② リネンサービス

	2020年度	2019年度	差異
のべ対象者数	12人	12人	—
のべ枚数	100枚	96枚	4枚

### ③ 外出支援移送サービス

	2020年度	2019年度	差異
利用実人員	0人	0人	—
延べ利用者数	0人	0人	—

### ④ 生活支援コーディネーター

	2020年度	2019年度
生活支援協議体関連	30回	22回
地域活動	27回	50回
各種研修	8回	7回
各種会議等	5回	7回